

久納会計 FAX ニュース



Kunoh Accounting Office
久納公認会計士事務所

2021年1月号 今年はどうな年

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。今回のテーマは例年通り、干支から考える今年の予想です。ちなみに今年の干支は辛丑（しんちゅう、かのと・うし）です。

辛の表すもの

辛（かのと）は一言で言えば、「つらい」、「むごい」、「ひどい」、「きびしい」等の意があり、「新」にも通じています。新の元の字は木を斧で切り倒し、鋭い刃物で切りさいた、生の面を意味する形声、会意文字です。「史記」の律書にも「辛は万物の辛生（新生）を言う」とあります。字形で言えば、上と干（求める・冒（おか）す）と一（一陽：エネルギーを表す）を組み合わせた形であることから、上を冒す意があるとされ、したがって辛は今まで下に伏在していた活動エネルギーが、色々な矛盾、抑圧を排除して上に発現するという意味になります。いわゆる「革新」です。

丑の表すもの

次に丑（うし）にはどのような意味があるのかでしょうか。丑の字は、右の手を挙げて伸ばした象形文字といわれています。意味は、母のお腹の中にいた嬰兒（えいじ＝胎児）が体外へ出て、今まで曲がっていた手を伸ばす、あるいは手の指先に力を入れて強く物を取るところから、「始める」「結ぶ」「掴（つか）む」であるとされています。

丑の字は、「糸」へんをつけると紐（ちゅう、ひも）となり、結ぶ・束ねる・統率するといった意味があります。団体にせよ、個人にせよ、生命体の様々な要素、要因を結びあわす、結合・結束するということを表します。そのままの意味

で捉えるなら、ねじれをあらためて新たな始まりを意味する年であると読み解けます。

こうしてみると、今年の辛丑という干支は、新たな始まり、「革新」を意味していると考えて間違いないようです。

昨年のふりかえり

昨年はまさかのコロナ禍の一年でした。昨年の1月号を書いているときには、武漢で新型ウィルスが発生したという報道があったかどうかですが、それから瞬くうちに世界中に広まり、今もその渦中にあります。残念ながら、昨年の干支である庚子（かのえ・ね）からはコロナによるパンデミックは予想することが出来ませんでした。干支からは、従来の流れが加速していくような予想でしたので、景気がこれだけ落ち込むことも予想できませんでした。

振り返って見ても、庚（かのえ）は更新を意味し、前年からの断絶を意味するような文字ではありません。強いて考えると、子（ね）は十二支の始まりであり、新しい時代の幕開けと考えると多少、納得がいきますが、本来は十干の方が主であるはずなので、理由付けとしては少々乏しいものになります。

ただ、十二支の子の方が強かったというのは、昨年予想した株式市場では当たっていました。過去の統計でも庚の年は下落する率が高く、子年は上昇する率が高いという結果でしたが、2020年の結果としては大幅上昇で終わりました。この点でも十二支の子の方の勝ちといえる状況でした。

西洋占星術でも200年ぶりの大転換の年

今年に関していえば、干支とは全く違った話に

なりますが、西洋占星術、いわゆる星占いの上でも大転換の年とされています。

それは2020年12月に「グレートコンジャンクション」が起り、200年ぶりに「地の時代」から「風の時代」に大きく変わったというものです。グレートコンジャンクションというのは、約12年で星座を一巡りする木星と約29年で一巡りする土星がぴったり重なり合うことをいいます。この現象は約20年に一度起こりますが、これがこれまでは「地の星座（牡牛座、乙女座、山羊座）で起きていたのが、今後200年間は「風」の星座（双子座、天秤座、水瓶座）で起きるといいます。

この意味合いは、産業革命以来の物質的な豊かさを求める時代から（地の時代）から精神的なもの、知性・情報、人と人との繋がりがより重視される時代（風の時代）に移ったということだそうです。これまで以上に「情報」が重要視される時代になりそうです。詳しいことをお知りになりたい場合は、「グレートコンジャンクション」で検索していただくと色々なホームページがありますので、ご覧下さい。

現実の世界も、コロナによって大きな転換が必要なことは明らかです。干支、あるいは西洋占星術からも、今年には大きな変革の時代が予想される結果となりました。

60年前・120年前の出来事

例年同様、60年前と120年前の出来事を見比べてみます。

1961年（昭和36年）は池田内閣による所得倍増計画が開始された年です。また、高度成長期の初期に当たり、次々と新会社・新製品が出た時代でした。災害としては第2室戸台風、名古屋の御園座全焼がありました。世界ではソ連のボストーク1号が初の有人宇宙船で地球一周に成功した年になります。

1901年には、2月に官営八幡製鉄所が操業を開始しました。1904年から始まる日露戦争に向けて、日英同盟の交渉も開始されました。

この両年とも、それまでの流れの中にあり、それほど大きな転換の年となったわけではないようです。今年の予想には、過去の出来事はあまり参考にならないようです。

今年がコロナ次第

今年の経済動向は、どれだけ早くコロナの影響が少なくなるかにかかっています。オリンピックも然りです。

このような状況ではありますが、今年が「革新の年」になりますので、みなさまも現状からの変革を考えて頂ければと思います。

株式相場については、「辛」の年は1950年以来の騰落は二勝五敗と芳しくありません。また、丑年は三勝二敗と多少いいですが、丑年は「丑つまずく」とされ、あまりよい年ではないようです。

今年の当事務所の取り組み

当事務所では、これまで同様、みなさまのお役に立つよう努めて参ります。まだまだコロナの影響は続くため、色々な給付金・補助金などについてお客さまと共に申請していきます。

それ以外では、RPAあるいはAIにも挑戦したいと考えています。私どもの事務所でうまく導入できれば、それを紹介させて頂き、お客さまのところで進めて行ければと考えています

大変な状況は続きますが、今年も何卒よろしくお願ひいたします。また、お知り合いの方で税理士にお困りの方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介お願ひいたします。しっかりと対応させていただきます。

それでは、早くコロナの影響が収束し、みなさまにとって、良い年となりますことをお祈りしております。（以上）

参考文献

安岡正篤著『干支の活学』（プレジデント社刊）

干支歳時記（越玄さんのホームページ）

ほしの恭世さんのHP、iさんのHP

ウィキペディア、各種年表など